

はじめに

今年度も、研究テーマに「確かな学力の育成」を継続して掲げた。そして、本年度はサブテーマを『基礎・基本の定着を図り、学び合う学習指導の工夫を通して』とした。研究を進めるに当たり、学習指導全般の研究を行う「学力充実部会」と、学び合う集団づくりについての研究を行う「Q-U活用部会」の2つの部会構成で教育実践を進めている。2つの部会設定の理由としては、授業を中心とした学力向上に取り組むとともに、授業を支える学級の支持的風土づくりを目指したからである。

また、今年度の研究を進める上でキーワードを『基礎・基本の定着』と『学び合い』とした。次期学習指導要領の育成すべき資質・能力の3つの柱として、「知識・技能の習得」、「思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びに向かう力・人間性等の涵養」が示されている。さらには、その資質・能力の育成に欠かせない視点として、各教科等での「主体的・対話的で深い学び」の実現が示されている。全職員がこのことを意識した授業改革を進めていくために、まずは基礎・基本の定着を図り、教える場面と生徒に思考・判断・表現させる場면을学習活動に位置づけて授業実践を進めている。

学力充実部会では、「甲佐中 1時間の授業の流れ」に基づいた授業づくり、『学び合い』や『振り返り』のある授業の共通実践、ICTの活用、家庭学習の充実、研究授業の充実を推進してきた。Q-U活用部会では、よりよい学習集団の育成と教師生徒間のリレーション構築に向けて、hyper-QUの実施と分析をもとに、学び合う集団づくりのための方法を検討してきた。

今年度は、普通教室にプロジェクター型の電子黒板が設置され、ICTの活用を特に進めている。「まずは積極的に使ってみる。」を職員の合い言葉として実践を積み重ね、ほとんどの授業でICTの活用がなされるようになってきている。

このように、授業と授業を支える集団づくりとICTを効果的に活用することが、各教科における「確かな学力」を身につけた生徒の育成につながると考えている。

本校の研究・実践は、まだまだ浅いものではあるが、ここに今年度の取組をまとめ、研究推進について自ら総括することにより、今後の研究・実践に生かしていきたい。